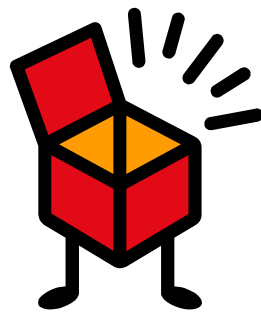


日立金属株式会社
2012年度第3四半期累計決算説明



Materials Mag!c

2013年1月30日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

■需要動向

自動車関連：北米は好調が持続したが、欧州は回復せず中国向け需要も減少

エレクトロニクス関連：タブレット端末等の需要は堅調だがPC・液晶関連ともに低調に推移

産業インフラ関連：工作機械関連は調整が続いたが、建設・復興関連、海外需要とも堅調に推移

■売上高・営業利益

売上高 1,309億円 (11/3Q比 90%、12/2Q比 98%) **営業利益 4億円** (11/3Q比 △164億円、12/2Q比 △63億円)

高級金属製品、高級機能部品セグメントは、第2四半期(7-9月)比 増益

電子・情報部品セグメントは、これまで戦略的備蓄を行ってきたレアアースにおいて価格の低下に伴う評価減等を実施、これによる影響額を計上

* 海外売上高 559億円(海外売上高比率 42.7%)

北米 161億円(構成比 12.3%)、アジア 295億円(構成比 22.5%)、欧州 86億円(構成比 6.6%)、その他17億円(構成比 1.3%)

■通期業績見込

北米向けの自動車関連需要は堅調に推移しているものの、エレクトロニクス関連や工作機械・FA関連分野等は調整が継続する見込み。これによる売上の減少に加え、原材料価格の低下に伴う特殊要因(下期約150億円)で営業利益が減少したことにより、前回予想を修正。今後、レアアース保有在庫については消化を進める取り組みを実施。

連結業績要約

[単位:億円、累計、()は前年同期比]

	2011年度							2012年度								
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	年度 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	下期 今回予想	通期予想			
													前回	今回	差異	
売上高	1,294	1,323	2,617	1,455	1,497	2,952	5,569	1,411 (109%)	1,333 (101%)	2,744 (105%)	1,309 (90%)	2,576 (87%)	5,480	5,320 (96%)	△160	
営業利益	109	56	165	168	116	284	449	103 (△6)	67 (+11)	170 (+5)	4 (△164)	50 (△234)	425	220 (△229)	△205	
経常利益	100	55	155	168	120	288	443	93 (△7)	60 (+5)	153 (△2)	12 (△156)	52 (△236)	391	205 (△238)	△186	
(特別損益)	△0	△2	△2	△34	△43	△77	△79	24 (+24)	0 (+2)	24 (+26)	△15 (+19)	△29 (+48)	7	△5 (+74)	△12	
税前利益	100	53	153	134	77	211	364	117 (+17)	60 (+7)	177 (+24)	△3 (△137)	23 (△188)	398	200 (△164)	△198	
当期純利益	62	6	68	79	32	111	179	73 (+11)	36 (+30)	109 (+41)	△7 (△86)	11 (△100)	252	120 (△59)	△132	
設備投資額	42	59	101	48	94	142	243	67 (+25)	68 (+9)	135 (+34)	51 (+3)	147 (+8)	285	282 (+39)	△3	
減価償却費	66	68	134	69	72	141	275	57 (△9)	59 (△9)	116 (△18)	61 (△8)	126 (△15)	246	242 (△33)	△4	
研究開発費	28	30	58	31	33	64	122	28 (±0)	27 (△3)	55 (△3)	28 (△3)	62 (△2)	117	117 (△5)	±0	

12年度第3四半期(12年10-12月)セグメント別業績

売上高 1,309億円 11/3Q比 90%、12/2Q比 98%

高級金属製品セグメント 553億円(11/3Q比 96%、12/2Q比100%)
 電子・情報部品セグメント 320億円(11/3Q比 73%、12/2Q比 88%)
 高級機能部品セグメント 441億円(11/3Q比 99%、12/2Q比106%)

■高級金属製品セグメント

特殊鋼は、工具鋼は工作機械関連や中国を中心とした海外需要が回復せず
 電子材も半導体パッケージ部材関連・液晶関連が低調に推移。ロールは国内・
 海外とも軟調に推移。アモルファスは中国を中心に旺盛な需要が継続。

■電子・情報部品セグメント

マグネットは、ネオジウム磁石がFA用、HDD用の調整が継続、自動車用も輸出
 向け自動車減産の影響や国内自動車販売減少の影響を受け減速、フェライト
 磁石も家電関連の調整が継続。情報部品は、ソフトフェライトが太陽光発電用
 やタブレット端末関連の需要が堅調に推移。

■高級機能部品セグメント

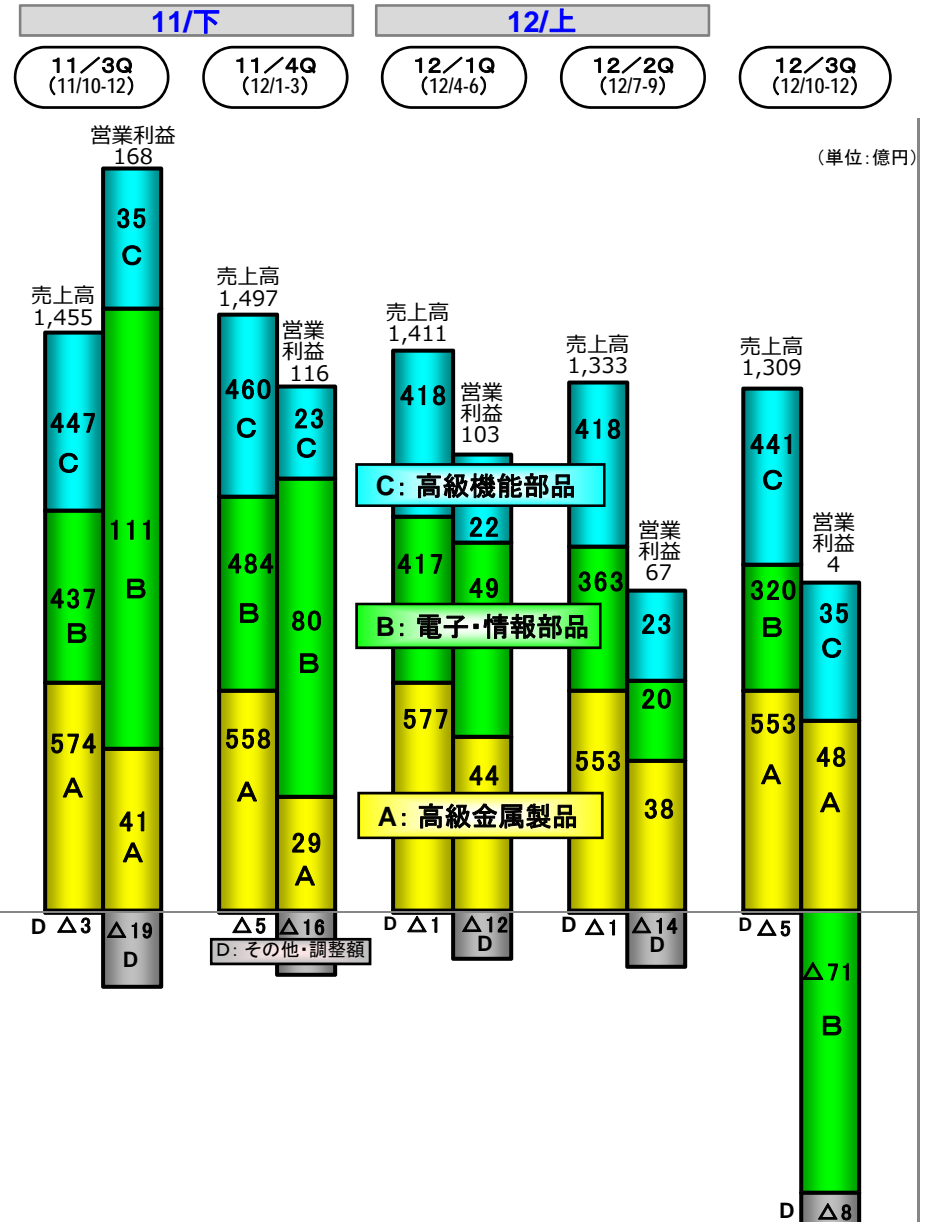
自動車用鋳物は、NM(ダクタイル鋳鉄製品)は引き続き北米・アジア市場で
 の販売が好調に推移、ハーキュナイトは欧州地域向けを中心に堅調に推移。
 アルミホイールは海外需要が引き続き堅調。配管機器は復興関連需要が
 動き出したことに加え、建設持ち直しによる需要も継続。

営業利益 4億円 11/3Q比 164億円減、12/2Q比 63億円減

高級金属製品セグメント 48億円(11/3Q比 +7億円、12/2Q比 +10億円)
 電子・情報部品セグメント△71億円(11/3Q比△182億円、12/2Q比△91億円)
 高級機能部品セグメント 35億円(11/3Q比 ±0億円、12/2Q比 +12億円)

エレクトロニクス関連や工作機械・FA関連の調整が継続、原価低減やコスト
 削減に努めたものの、原材料価格低下に伴う影響等の特殊要因により、
 原材料価格転嫁タイムラグ圧縮効果等が寄与した前年同期(11/3Q)対比で
 164億円減、前期(12/2Q)対比では63億円減となった。

*12年度より「軟磁性材料」は電子・情報部品セグメントから高級金属製品セグメントへ区分変更しております。
 この変更に伴い前年度(11年度)実績についても変更後の区分に基づき作成、表示しております。



2012年度業績予想 (13年1月30日発表数値)

売上高 5,320億円 (予想対比 $\Delta 160$ 億円、11年度対比 96%)
営業利益 220億円 (予想対比 $\Delta 205$ 億円、11年度対比 $\Delta 229$ 億円)

■高級金属製品セグメント

売上高 2,220億円 (予想対比 $\Delta 70$ 億円、11年度対比 96%)
 営業利益 170億円 (予想対比 $\Delta 30$ 億円、11年度対比 $\Delta 7$ 億円)

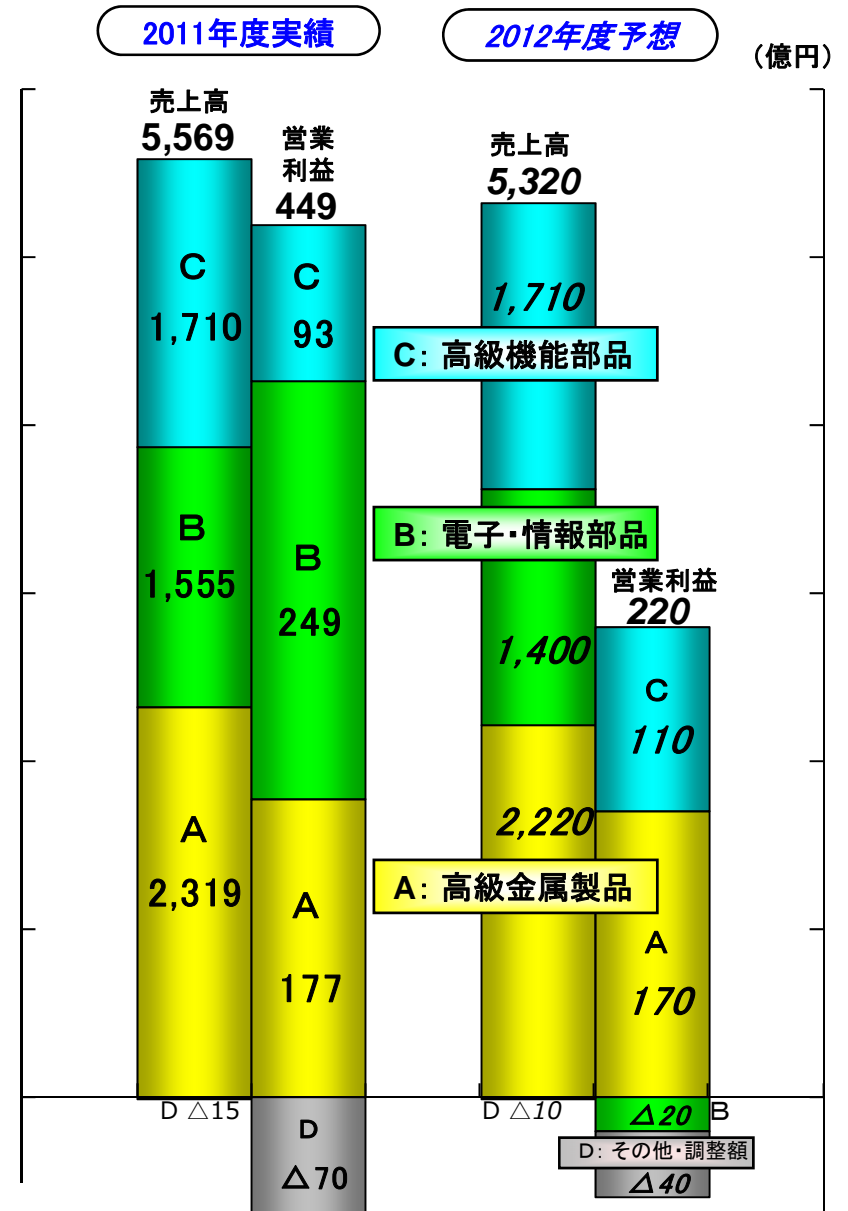
■電子・情報部品セグメント

売上高 1,400億円 (予想対比 $\Delta 75$ 億円、11年度対比 90%)
 営業利益 $\Delta 20$ 億円 (予想対比 $\Delta 175$ 億円、11年度対比 $\Delta 269$ 億円)

■高級機能部品セグメント

売上高 1,710億円 (予想対比 $\Delta 15$ 億円、11年度対比 100%)
 営業利益 110億円 (予想対比 $\Delta 10$ 億円、11年度対比 +17億円)

予想対比: 12年10月25日発表数値との対比

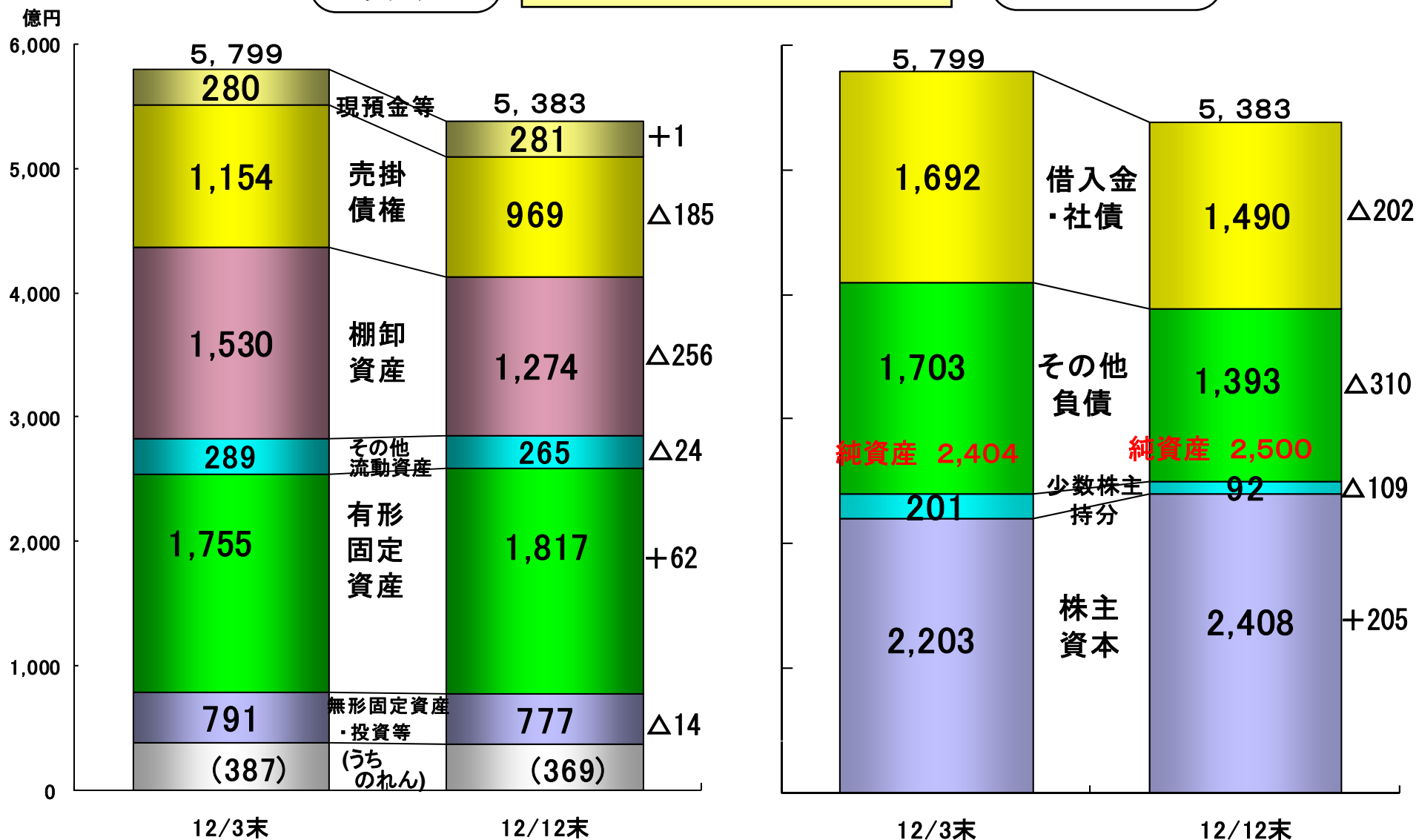


連結B/S残高

12/3末比増減 $\Delta 416$ 億円
D/Eレシオ 0.62

資産

負債・純資産



連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	11年度 第3四半期累計	12年度 第3四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	340	280
税金等調整前当期利益	287	175
減価償却費	203	177
棚卸資産の増減	△513	251
その他	△83	△133
営業キャッシュ・フロー	△106	470
設備投資	△149	△186
その他	4	△30
フリーキャッシュ・フロー	△251	254
借入金・社債の増減	293	△197
配当金支払他	△60	△70
ネットキャッシュ・フロー	△18	△13
為替換算差額他	△17	14
増加額または減少額合計	△35	1
現金及び現金同等物期末残高	305	281

(注) 設備投資は検収ベース

(参考) 日立金属 機構改革(12年4月～)

旧

高級金属製品
セグメント

*セグメントは
日立ツールも加え構成

特殊鋼カンパニー

ロールカンパニー

電子・情報部品
セグメント

NEOMAXカンパニー

情報部品カンパニー

軟磁性材料カンパニー

高級機能部品
セグメント

*セグメントは
日立機材も加え構成

自動車機器カンパニー

配管機器カンパニー



高級金属製品
セグメント

高級金属
カンパニー

*セグメントは日立ツールも加え構成

特殊鋼事業部

ロール事業部

軟磁性材料事業部

電子・情報部品
セグメント

電子・情報部品
カンパニー

NEOMAX事業部

情報部品事業部

高級機能部品
セグメント

高級機能部品
カンパニー

*セグメントは日立機材も加え構成

自動車機器事業部

配管機器事業部

(参考) 日立金属の事業構造

材料開発をベースに幅広い産業分野で「質」を提供する素材メーカー



(参考) 日立金属 セグメント別事業内容

事業セグメント	事業ユニット	主要製品
高級金属製品	高級金属カンパニー 特殊鋼事業部	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ]:金型・工具用材料、電子金属材料[ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料]、産業機器・エネルギー関連材料、剃刃材および刃物材
	ロール事業部	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性材料事業部	アモルファス金属材料[Metglas®]
	日立ツール株式会社	切削工具
電子・情報部品	電子・情報部品カンパニー NEOMAX事業部	マグネット (希土類磁石[NEOMAX®]・フェライト磁石・その他各種磁石およびその応用品)
	情報部品事業部	情報通信機器用部品、IT機器用材料・部品、医療機器用材料・部品、ソフトフェライトコアおよびその応用品、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]およびその応用品、アモルファス金属材料[Metglas®]およびその応用品
高級機能部品	高級機能部品カンパニー 自動車機器事業部	自動車用高級鋳物部品(排気系耐熱鋳造部品[ハーキュナイト®]、高級ダクタイル鋳鉄製品[HNM®]、アルミホイール[SCUBA®]、その他アルミニウム部品、自動車用鍛造部品)
	配管機器事業部	設備配管機器(®印各種管継手・ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張用タンク)
	日立機材株式会社	建築部材(内装システム、構造システム、屋上システム)、チェン(マテハンシステム)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動